

『古文書を読む会』

について その二

付記 図書館講座の現状

林 寅 喜

(会員 佐伯市中の島)

表題の件に関しては史談一八六号により、『読む会』が発足した平成七年から十二年末までの五ヶ年間に、解読した手紙三通と文書二十件について紹介した。

今回は引き続き昨十七年末までに解読し、勉強した感状・書状五通と、文書十五件六四〇余頁を「その二」として要旨をまとめ、ここに紹介することとした。

一、佐伯梅峯記

57 P

今日、佐伯地方で最も信憑性が高いとされている「梅牟礼実録」は文政十二年の写本で、その解読文は「大分県史料集成戦記編」に収録されているが、原本と写本の所在は知らない。

紹介した「佐伯梅峯記」は、実録の写本より十二年後の天保十二年（一八四二）、黒沢村の三代吉こと汐月弥平治（後に黒沢村最後の庄屋を勤めた人）が十五歳の時その学識を試すため、別人が朗読するのを傍らで聞き書きしたものらしく、誤字や脱字、また、当て字が多く解読に苦労したが、内容は「梅牟礼惟治記」に類似しており、実録と同様稗史の類とは言うものの、貴重な資料であることに変わりはない。

一、国絵図の儀に付覚

51 P

元禄十年（一六九七）、幕命により大名間の領域について明細図の提出を求められた際、府内藩を中心に臼杵・岡の三藩との間で、相互に入り乱れた領界の確認についてその経緯を記録した文書である。

一、大友義鑑感状ほか（久保文書）

4 通

義鑑感状、義鑑受領書出、泰弘法祥連署施行状、氏泰奉公人連署奉書の四通。

一、由原記

50 P

大分市大字八幡字二葉山に鎮座する杵原八幡宮の、神仏混淆期における一山の最高権者、宮師を中心として繰り広げられた人事の葛藤と、浜の市御神幸並びにそ

の他一山の出来事について、寛永年間以降の経緯を記録した文書である。

一、堀内伝右衛門覚書

26 P

大石内蔵助をはじめ、十七人の浪士が預けられた熊本藩細川家の下屋敷において、切腹に至るまでの四十九日間、その世話をした堀内伝右衛門が書き残した記録で、興味深いものがある。

一、富森助右衛門筆記

7 P

内蔵助をはじめ十七人の浪士と共に細川家に預けられた富森助右衛門（三十四歳）が、吉良邸討入りの様子について書き残したもの。

一、寺坂信行（吉右衛門）自記

7 P

赤穂浪士四十七人のうち、事件後ただ一人生き残った吉右衛門（延享四年へ一七四七）八十三歳で死亡）が書き残した自記。

一、小野市組庄屋文書

90 P

御上使様御通行の節出役の者共勤書附

宝暦十一年（一七六一）、幕府巡検使一行を迎えた岡領宇目郷四十六ヶ村のうち、小野市組小庄屋庄右衛門の父子左衛門が歓待の内容を記録したもので、食材の

種類や調理の品目などまで詳しく書いてある。

一、源頼朝書状

1枚

宛名は書いていないが、後白河法皇ではないかという

一、下肥値段取極再議定

7 P

人工百万といわれた江戸の人達が排出する屎尿を肥料として田畑に還元するため、くみ取りを生業とする者達の肥舟一艘当たりの価格取り決めや、農家への売り渡し単価等についてまで協定した文書である。

一、在中御賞の事ほか二件

16 P

安政元年（一八五四）、白杵藩より在浦へ触れ廻された在中御賞、並びに仰せ渡されの事は、在中御出での事、の三件についての記録。

一、杵築藩家老日記

65 P

元禄十二年（一六九九）三月から十二月までと、宝永二年（一七〇五）四月から六年二月までの家老日記書き抜きである。

一、旧西上浦村予算書

15 P

明治二十一年（一八八八）、市町村制度が発足して五年後の二十六年三月二十日、村議会に提出された補正予算の議案書。

二〇一号に内容他掲載。

一、赤木村大庄屋日記

36 P

赤木村の大庄屋並安藤吉左衛門が書き残した、明治四年（一八七二）の日記二二八頁のうちから、三六頁だけ抜粋して解説したもので、封建制度が瓦解して文明開化の時代を迎え、行政の内容が日毎に変化していった世情がよく理解できる。

一、慈悲無尽旨趣約束

11 P

宝曆六年（一七五六）、三浦梅園が富永村の村民を対象として相互扶助のため、始めたという無尽の内容について詳しく説明したもの。この無尽は以後明治まで続いたと言われている。

一、宇佐宮奉幣使記録

23 P

歴代天皇の即位報告並びに祈願、または奉賽等のため勅使が下向した際の記録で、延享元年（一七七四）桜町天皇即位の報告を例として書かれたもの。

一、白杵藩資料

雍通様御隠居尊通様御家督

90 P

十一代藩主雍通が病気を理由に四十四歳で隠居し、嫡子尊通が十九歳で家督を相続した時の記録である。

なお、尊通相続の内容については「経費がかかった官位の受領」と題して二〇〇号に掲載。

まとめ

平成七年八月、『古文書を読む会』が発足した頃図書館講座は二年目に入っていた。しかし、月に一度の講座では満足できない者同士が五人集まり、独自に勉強しようということと相談の結果、教材には藩政史料を使わず庄屋文書か覚書、証文または手紙など一般文書を中心にして行こうということが発足した。

以後十年の間、年次経過と共に参加者の増減もあったが、平成十七年末現在は九人（末尾参考）で毎月第二火曜日に開講している。なお、暮れに二人の参加者があって、新年から十一人となった。

古文書の勉強は改めて言うまでもなく、飽きずに根気よく続けることと繰り返し詠むことによって理解し自信も付く。諦めと投げやりは禁物で、頭脳に活を入れると思つて励むことが大切である。

付記 図書館講座の現状

現在市立図書館では毎月二回開講しており、その一つは第四日曜日の初心者向け（日曜講座）で平成十六年から始め、現在十五人在籍している。いま一つは一般向け（土曜講座）でこちらは平成二年史談会が主催して始めた講座を五年から図書館が引継ぎ、在籍者は十六人いるがうち何人かは両講座共参加している。

教材は何れも藩政資料が中心であるが、日曜講座では目下平成五・六年の教材から選んで再解読しており、土曜講座は温故知新録の中から抜粋して解読し、十八年からは町方日記に移行した。なお、両講座共出来るだけ補足資料を添付するよう心掛け、付加価値のある講座となるよう努めている。意欲のある方奮ってご参加下さい。

自主活動参加者氏名 ・ は非会員

- ・ 芦刈成雄 久保 彰三 鶴野 博文
- 橋迫 照 林 寅喜 松木 徹男
- 矢野徳彌 矢野 彌生 吉田斎次郎
- 十七年より参加
- ・ 小野 幾夫
- ・ 関 正利

佐伯市生涯学習市民講座〔郷土の歴史教室〕

講師：佐伯史談会会員

	内 容	講 師	日にち
1	開級式		6月29日(木)
2	佐伯の川と自然	真柴茂彦	7月13日(木)
3	佐伯の先史古代	矢野彌生	7月27日(木)
4	佐伯氏一族の興亡	佐藤 巧	8月10日(木)
5	毛利氏と佐伯領	小野英治	8月24日(木)
6	御朱印道中と随行した藩士の暮らし	林 寅喜	9月14日(木)
7	古文書にみる百姓の生活	高宮昭夫	9月28日(木)
8	隠れキリシタン	柴川英敏	10月19日(木)
9	直川佐藤大庄屋と庶民の暮らし	竹中百茂枝	10月26日(木)
10	百姓一揆	矢野徳彌	11月 9日(木)
11	郷土の歴史金石文を読む	木許 博	11月30日(木)
12	国木田独歩	大野寿一	12月14日(木)